

平成16年3月期第1四半期決算関連Q&A概要

【計測器事業に関するQ&A】

Q1: 第3世代携帯電話は、国内ではどれくらい伸びるとみるか？

A1: 携帯電話は、マルチシステム化対応が成功している。今後は、シグナリングテストだけでなくコンテンツ生産にかかわる機材等により拡大を図りたい。
なお、欧州では、過去、携帯電話のサービス開始時に需要が発生している。3Gサービスの提供はこれからであり、ここ2~3年は、数十パーセントレベルの伸びが期待できる。

Q2: 米国では、今後ブロードバンド化の進展が期待でき、クロスコネクトなどはローコストの機材で構築されると予想するが、計測器の需要についてどのような変化が出てくるとみているか？

A2: アナライザー的なものや導通チェック用途のものは、帯域も高くないため安価であり、また地元競合も存在するため、それほど大きな伸びは期待できないが、物理レイヤ（ファイバー）においてはアンリツには優位的な技術があり、今後、大きなシェアを獲得することが期待できる。

Q3: 「携帯電話機生産用測定器」の今後の受注状況

A3: 年間予算を上期で達成する勢い。ただし、通期全体の状況はまだ見えていない。携帯電話の開発に使うシグナリングテストは、前年より需要は弱含みと予想していたが、欧州から引き合いが増えてきたので期待している。

【計測器以外の事業に関するQ&A】

Q4: 情報通信及び産業機械は、第1四半期の結果を見ると前期に比べ改善されているようだが、現状についての見解は？

A4: 情報通信は、営業利益ゼロ+を必達として掲げているが、経営構造改革の成果等により設計図どおり推移している。産業機械も海外の受注が活発であり、積み上げも期待されるどころだが、現時点では通期見直しを変更するレベルではない。

【財務に関するQ&A】

Q5: 棚卸がまだあるが、除却する必要（リスク）はあるか？

A5: サプライチェーンマネジメントを導入し、また、部品を他の製品へ転用したり、製品を拡販する努力はしているがまだ十分成果を出し切れていない。アンリツは会計方針として保守的に評価損をたてる基準をもっており、今後、プロダクトミックスの変化があった場合のリスクを業績見通しに織り込んである。